

2015年 讚美歌特集(その2) 讚美歌と童謡①

教会ってどんなところ？

神

と出会う

あるべき姿をみいだせます。

それはまるで、生き別れた本当の父親に出会う瞬間です。

神はあなたを世界でたった一人の特別なオンリーワンの存在として愛しています。富・能力・肩書・行い……そのようなものに一切関係なく、あなたをありのままに受け入れてくださいます。なぜなら神は天にいるあなたの父、造り主だからです。ここがあなたの居場所です。

救

いにあずかる

あたたかないのちが回復します

それはまるで、家出した子供が父のもとに帰り抱きしめられる感動です。

神から離れ、思うがままに生きているのが罪です。人はそれを自由とっていますが、心のなかにはねたみ、憎しみ、疑い、好色、嘘、貪欲、高ぶり…などに満たされ人知れず心疲れ、病み、行き詰まっています。救いとは罪を認め、神に立ち返るときに与えられる、許しです。

満

ちあふれる

確かなぬくもりの中を歩きます

それはまるで、温かく大きな手に握られている歩みです。

日曜日に教会に来て礼拝する生活は、あなたの魂と心を生き生きとさせます。それはまるで泉に植わる木のように。讚美歌を歌い、祈り、聖書のメッセージに耳を傾ける時、神の働きかけを受けて心は平安と喜びに満ち溢れるからです。新しく生き生きと輝く秘訣です。

定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び 10:30~12:10	(水) 聖書の学びと祈祷会 19:30~
教会学校 13:30~14:30	
夕 拝 19:30~	(金) 聖書の学びと祈祷会 10:00~

正しい者たち。主にあって、喜び歌え。

讚美はこころの直ぐな人たちにふさわしい。詩篇33篇1節

私たちのふるさととは天にあります。そこには救い主である

主イエス・キリストがおられます。

福音歌手として活躍している森 祐理さんは、私たちの教会でも1999年にコンサートを開いた方です。記憶にある方もおられると思います。

1995年1月17日の朝、阪神淡路大震災の中で、最愛の弟をなくしました。森さんはその後、台湾や四川地震・東北の大震災の支援活動に携わってきました。今年で20年となった、追悼の日に森さんは神戸で復興応援歌「幸せ運べるように」を歌いました。今年の3月11日は東北仙台でチャリティコンサートを行っています。震災以後人々の心に響くメロディーの一つに「ふるさと」があります。作曲したのは、鳥取出身のクリスチャンの岡野貞一でした。94号で紹介したメイソンの信仰を継いで多くの日本人音楽家が童謡・唱歌を作ったのでした。良い詩に出会うと、自ずと曲になるようで長野県の野沢の情景を謳った高野辰之の「ふるさと」に、帰るべき「ふるさと」を思っ作曲したのではないのでしょうか。

今年は4月5日がイースターです。私たちは神様から愛されている存在であり、ありのままに受け入れてくださり救われた人が帰りつく所が天国です。天国にある永遠の「ふるさと」を求めることをお勧めします。



〒213-0023 川崎市高津区子母口776

発行

日本同盟

子母口キリスト教会

編集

基督教団

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信 http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181 FAX 044-766-2157



春が来た・おぼろ月夜・春の小川・もみじも

岡野・高野コンビの作品です。

1 兔追いしかの山
小鯛釣りし
かの川
夢は今もめぐりて
忘れがたき 故郷

2 如何にいます父母
恙無しや
友がき
雨に風につけても
思い出ずる 故郷

3 志をはたして、
いつの日にか、
帰らん
山は青き故郷
水は清き故郷

岡野貞一は1892年鳥取教会で洗礼を受け、同年宣教師からオルガンの奏法を学び、東京音楽学校（現芸大）の二代目校長による1892年に行れた鳥取での講演を聞いて、音楽家を目指しました。3番の歌詞にその思いが凝縮し、この名曲の誕生となったのではと思われます。

岡野貞一は卒業後学友が海外に留学するのに倣わず、**本郷中央教会**のオルガン奏者として、40年務めその生涯を終えました。水は清きの詩にクリスチャンであった貞一には幼いころ、教会で歌ったことのある讃美歌

Shall We Gather at the River?

を想起されたのでしょうか。**中田羽後**が訳し、教会のこどもの讃美として歌い継がれています。この曲も文部省は行進曲として使用しました。♪たんたんたぬきの・・・という旋律です。♪ 向こう横町のたばこやの、かわいい看板娘 の旋律でも知られています。



岡野貞一

高野辰之



中田羽後

本郷中央教会は、1890年に設立され、**夏目漱石の三四郎**に登場する教会であり、**花子とアン**でも、花子が日曜学校の奉仕をし、初恋の帝大生と出会った教会として描かれていました。三浦綾子さんの「塩狩峠」の冒頭でも出てくる教会でした。

原曲は1864年に**ロバート・ロリー**によって作られました。当時ニューヨーク州ブルックリンでは疫病が蔓延していました。多くの方が死んでいく有様の中悲しみと絶望の状態のなかで、ローリーはこの世で死に別れても、私たちは**天国**で再会できるというメッセージをこめて作りました。

聖書の黙示録22章1節には「**御使いはまた、私に、水晶のように光るいのちの水の川を見せた。**」とあります。3月11日を体験した日本と似たような状況の中で人々に生きる希望を伝えた **Shall We Gather at the River?** と岡野貞一が作った**ふるさと**には根底にクリスチャンとしての希望がこめられていたのです。

まもなくかなたの、流れのそばで、
お会いしましょう また 友達と
神さまのそばの きれいな きれいな
川で みんなで集まる日の
ああ なつかしや。

聖歌687

藤村の「椰子の実」にも永遠のふるさと（天国）の思いが

- 1 名も知らぬ遠き島より流れ寄る
椰子の実ひとつ 故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月
- 2 もとの木は生いや茂れる 枝は
なお影をや なせる 我もまた
渚を枕 孤身の浮寝の旅ぞ
- 3 実をとりて胸にあつれば
新たなり流離の憂い 海の日の
沈むを見れば たぎりたつ
異郷の涙
思いやる、八重の汐路 いづれの
日にか くんに帰らん



若き藤村

小説家**島崎藤村**は16歳で洗礼を受けています。彼は讃美歌をまねて書いた詩を自作として発表する、子供ばい所がありました。

受洗に影響を与えた共立学校時代の学友の木村熊治の影響で小諸にて教師をしています。若いころ作った詩である

思いやる、八重の汐路 いづれの日にかくんに帰らん この詩を柳田邦夫の 伊良湖での経験の話から作った詩の最後に加えたのです。受洗後は明治学院にて学んでいた藤村にとって、聖書の教えは新鮮で、その若い感性に深く水脈をめぐらしたといえます。

激動の時代 人は如何に生きるのか。人生の目的はなんであるのか。若い魂は結論を聖書に見出しました。国民歌謡とする目的で31年後の1936年、**クリスチャンの 大中寅二**に作曲が依頼されこの曲は生まれました。

わたしたちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを 私たちは望んでいます。 ビリビ3勝20節

プレゼントします。

CD付きメッセージ
永遠のふるさと



福音歌手の森 祐理さんの唱歌ふるさとが聞けません。はがきで教会に申し込み下さい。郵送します。

5月31日(日) 13:30~

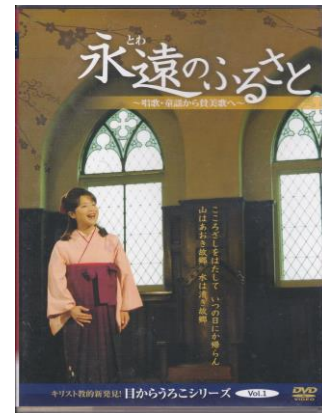
永遠のふるさと 讃美歌と唱歌がわかる

ビデオ鑑賞会

会堂2階にて

ナビゲーター **森 祐理さん**
出演のビデオです

茶菓もあります。



94号で5月30日と間違えておりました。お詫び申し上げます。